

令和元年6月10日現在

機関番号：33908

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07220

研究課題名（和文）フローベール作品における19世紀の宗教知の摂取と表象

研究課題名（英文）Absorption and representation of the 19th century religious knowledge in the work of Flaubert

研究代表者

中島 太郎（Nakajima, Taro）

中京大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：70802867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：ギュスターヴ・フローベールの作品における宗教的表象を、作者が参照した資料の調査・解析をふまえながら、19世紀の宗教知と照らし合わせて解読することを目指した。作品に描かれた宗教と科学の葛藤は、19世紀の脱宗教化の流れと不可分であるが、同じ宗教批判であってもテキストの背後には異なる言説や思想が絡み合っており、重層的な構造をなしていることが理解できる。こうした作品の独自性と歴史的射程は、草稿の調査のみならず、同時代の宗教知との比較によって初めて浮かび上がるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

作品の背後にある宗教知の全体像に近づくことによって、これまで個々の作品ごとにしか扱われることのなかったフローベールにおける宗教のテーマを総体的に浮かび上がらせた。このテーマは哲学や道徳、政治社会、さらに科学の諸分野（医学、生命科学、生物学）とも密接に結びついており、今後も様々な形で発展が可能である。また、作品に描かれた宗教形態の多様性は、今日の宗教的共存や政教分離の問題へとつながる問いでもあり、本研究で得られた成果は、文学のみならず、歴史学、宗教学、社会学、思想史といった他の専門分野に十分に資するものである。

研究成果の概要（英文）： This research project considered the religious representations in Gustave Flaubert's work in light of the religious knowledge of the 19th century, based on the investigation and analysis of the material referred by the author. The conflict between religion and science depicted in the work is inseparable from the movement of secularization of the 19th century, but even with the same religious criticism, different discourses and ideas are intertwined behind the text, forming a multi-layered structure. The originality and historical range of these works emerge not only through the draft research but also in comparison with diverse religious knowledge of the 19th century.

研究分野：フランス文学

キーワード：フローベール 19世紀フランス 宗教の表象 脱宗教化 宗教批判

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、ギュスターヴ・フローベール(1821-1880)作品の草稿のデータベース化が進んだ結果、そこで用いられた膨大な19世紀の知の全貌が明らかにされつつある。研究代表者はフランスでの草稿のデータベース化作業に参加しつつ、文学テキストの文献学的、歴史的、実証的な読解に取り組んでいる。フローベール作品と19世紀フランスの脱宗教化の歴史を関連づける必要性を強く認識し、本研究の着想に至った。歴史学で「二つのフランス」と形容されるイデオロギーのせめぎあいが、フィクションにおける宗教と科学の対話や、教権主義と反教権主義の対立構造にどのように表れているか。科学的な知を取り込みながら変容していく19世紀フランスにおける宗教知の葛藤がどのように作品に取り込まれているか。ここには植民地やオリエンタリズム、さらにドイツにおける宗教学の勃興など、ヨーロッパ全体に関わる動きも関連している。よって、宗教的表象の意味をより広く読み解くには、歴史学との連携が不可欠となる。歴史学の成果との連携を試みながら、文学研究の立場から国家/社会と宗教との複雑な絡み合いについて再考することをめざした。

2. 研究の目的

フローベール作品における宗教的表象を、作家が参照した資料の調査・解析をふまえながら、19世紀の宗教知、およびフランスの脱宗教化の歴史との関連において、解読することを目的とした。科学的な知を取り込みながら変容していく19世紀フランスにおける宗教知の葛藤が作品でどのように描かれているか。そこには、今日のフランス社会における政治と宗教の錯綜や、その根幹にある政教分離の問題にも通じる視座がある。具体的な目的は、第一に、作品を書く上で作者がいかなる資料を参照したのかを、蔵書や草稿資料の調査を通じて明らかにする。第二に、それが作品で具体的にどのような痕跡を残しているかを分析する。第三に、それらを踏まえ、フローベールにおける宗教的表象が、19世紀の宗教知と照らし合わせた際に、いかなる独自性と歴史的射程を持っているのかを解明することとした。

3. 研究の方法

本研究は、平成29～30年度の2か年計画で行った。平成29年度は、主に調査活動・資料収集に重点をおいた。フローベールの宗教関連読書について、刊行された書簡、草稿、データベース化された読書ノートを軸に、個々の作品に用いられた資料を調査し蓄積した。『聖アントワーヌの誘惑』『ブヴァールとペキュシェ』を中心に作品間に共通して用いられた資料を明らかにした。実際に使用された版を特定するため、国内の各大学図書館やパリのフランス国立図書館等へ赴き、現物を確認した。平成30年度は、前年度の調査活動を補完しつつ、作品における宗教資料の使用から見られるその独自性を探った。それを19世紀の歴史的コンテキスト(宗教史、思想史、文化史等)に位置付けた。さらに同分野の研究者と情報交換を行った。とりわけ2年目はフローベールの宗教知の専門家であるジゼル・セジャンジェール氏(パリ東大学教授)を招聘し、作品や草稿に関する議論と今後の打ち合わせを行った。

4. 研究成果

フローベールの宗教と科学のテーマを探るなかで、19世紀フランスにおける反プロテスタントイイズム(antiprottestantisme)の流れが浮き上がった。19世紀の非妥協的カトリックと表裏をなしているこの流れは、『ブヴァールとペキュシェ』9章(宗教)におけるジュフロワやファヴェルジュの言説(反科学、反近代、ド・メーストル)を考える上できわめて重要である。それとあわせて、当時のドイツ経由でフランスに流入した合理主義的な宗教批判が、フローベールとその作品に及ぼした影響が明らかになった。とりわけ、エルネスト・ルナン、アルフレッド・モーリー、ミシュレ、さらにヴォルテール、スピノザなどの宗教批判としての知(科学)が、フローベール作品の反宗教的な側面にどのように影響を及ぼしているかを考察し、一定の成果を得られた。反プロテスタントイイズムについては、2017年9月に菅谷憲興氏(立教大学教授)主催の研究会で『ブヴァール』9章における宗教と科学 19世紀のプロテスタントイイズムと「二つのフランス」と題して発表を行った。

同時に、従来から取り組んでいる19世紀における司祭のテーマにも取り組んだ。このテーマは文学と歴史(宗教史、社会史、思想史)を横断するものであり、2017年末に刊行された『フローベール辞典』(Honoré Champion)では、これに関するいくつかの項目(「司祭」「教義」「供儀」「罪」「ジョゼフ・ド・メーストル」「ブルニジャン」「ジュフロワ」「殉教者」「異端」「イエズス会」)の執筆を行い、作品を横断する司祭のテーマをさらに掘り下げることができた。

2018年度には、宗教の主題を扱った『フローベール 純な心』(大学書林語学文庫)を刊行することができた。また、今後の草稿作業について知見を得るため、当初の予定を一部変更し、ジゼル・セジャンジェール氏(パリ東大学教授)の招聘を計画した。具体的には『聖アントワーヌの誘惑』の草稿に関する打ち合わせ、及び計2回の講演会を計画、実施した(立教大学では菅谷憲興氏(同文学部教授)の協力のもと「歴史の思想における人種 オーギュスタン・ティエリ、ミシュレ、フローベール」と題して、また中京大学では「生物学と宗教 プーシ

エ、ミシュレ、フローベール」と題して行われた)。いずれもきわめて充実した内容であり、フローベールにおける宗教の問題を研究する上で多くの示唆を含む有意義な講演会であった。フローベール研究者も多く参加し、活発な質疑応答、および意見交換が行われた。なお並行して、セジャンジェール氏の助言のもと、フランスで提出した博士論文の出版のため内容の確認、修正を行い、『ブヴァール』9章における合理主義の二つの側面について加筆を行った。

今後の展望として、フローベールにおける合理主義の様々な側面(無神論、理神論、唯物論、ヴォルテール主義、汎神論、スピノザ主義、自由主義、反教権主義)について、引き続き19世紀の宗教知と草稿資料を参照しながら考察を行っていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

中島太郎 『フローベール 純な心』、大学書林、大学書林語学文庫、2018年、163

Gisèle Séginger (dr.), Juliette Azoulai, Yvan Leclerc et Sugaya Norioki (comité scientifique), *Dictionnaire Flaubert*, Paris, Honoré Champion, 2017, 1771頁. Taro Nakajima (項目執筆)
« Bournisien » (p. 221-222) « dogme » (p. 475-477) « Hérésies » (p. 706-708) « Jésuites » (p. 803-805) « Jeufroy » (p. 805-807) « Maistre (Joseph de) » (p. 900-902) « Martyrs » (p. 917-919)
« Péché » (p. 1110-1112) « Prêtre » (p. 1191-1195) « Sacrifice » (p. 1420-1422)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：ジゼル・セジャンジェール

ローマ字氏名： Gisèle Séginger

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。